



寒河江校だより 第5号

2024年11月11日

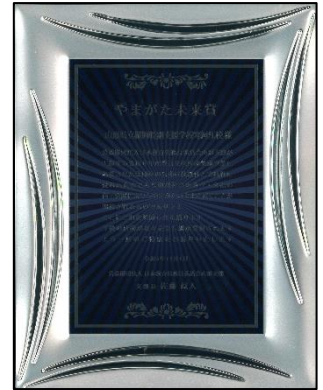
やまがた未来賞をいただきました

寒河江校が平成30年から継続して行っている「つるり里芋を用いた取り組み」を、今後も継続して行っていくために日本教育公務員弘済会が主催する「やまがた未来賞」に申請した結果、寒河江校の取り組みが第18回「やまがた未来賞」を受賞しました。

11月1日にグランドホテルで授賞式が行われ、受賞の楯と賞金の目録をいただけてきました。授賞式で会場にて紹介していただいた文章と写真を以下に掲載いたします。

選考委員の方からは、「地域の特産品とのつながりと地域の方々への発信という点が評価できる。」という講評をいただきました。特に「地域の方々への発信」という点については、受け身側が多い特別支援学校において、発信という点は、これからの特別支援学校の姿として大いに評価し、今後も一層実践して欲しいというコメントもいただきました。

今回、いただいた賞金は、今後も寒河江校が「つるり里芋」をみんなで育て、収穫し、子ども達の学習の先生をしてくださっている地域の先生方を招待した「芋煮会」を継続して実施していくための、耕運機をはじめとした農機具やテント、収穫用のコンテナなどの学習教具を購入する費用として活用します。



紹介文)

本校は、寒河江市立高松小学校に併設された西村山地区に初めて開校した知的に障がいのある小学部の児童が学ぶ学校です。平成30年からJAさがえ西村山のブランド里芋「つるり」を、地域の特産品を知り地域の人とつながる題材として取り上げ、様々な学習場面で活用しています。特に、日頃お世話になっている地域の先生を招待して行う芋煮会は、児童が地域の先生と共に楽しく会食し感謝の気持ちを伝える場として定着しています。このように、学校と地域とをつなぐ、里芋「つるり」を用いた学習は、今後も継続して取り組んでいきたい活動だと考えています。



「お馬さんとふれあおう」 寒かったけど、楽しかったよ。

11月7日(木)、高松小学校の校庭で「お馬さんとふれあおう」の学習を行いました。

今回の学習のねらいは、「いつもと違った経験を」「新しい発見を」「驚きを」「不思議な感覚を」…そのような、「いつもとは異なる」感覚を、子ども達に実際に体験し感じてもらいたいというものです。体育の授業や休み時間に使っている校庭に、馬が2頭いるという、いつもと違った風景と馬の存在に気付いたときの、驚きと興奮を表情一杯に出していた子ども達の姿が、本当に感動的でした。



お馬さんのからだにさわってみてどうだったかな？毛は柔らかかったかな？ニンジンあげることができたかな？食べたかな？



お馬さんとの散歩に挑戦してみようだったかな？グイグイ進んでいくお馬さんと一緒に歩くの、大変だったよね。



乗馬体験。少しドキドキしたよね。フワフワ、トントンと揺れる感覚。はじめての感じに緊張したけど、最後は笑顔だったね。



この学習には、4人のお馬さんの先生が来てくれました。山形市みはらしの丘の高橋さん親子、前森高原乗馬施設の下山さん、川西町ひらすび牧場の金田さんです。みなさんとても優しく、子ども達は、お馬さんとかかわり方や一緒に歩く方法、乗馬の仕方を教えてもらいました。感謝の気持ちを込めて、お馬さんにはニンジンとリンゴ(実はニンジンよりもリンゴが好きだということです)、先生方には記念のバックを子ども達からプレゼントしました。また、今回は、高松小学校の1、2年生、たかまつ保育所の子ども達も一緒に体験をしました。お馬さんを通して高松地区の全ての学校等の子ども達が一斉に同じ体験学習をすることができたこと、本当に良かったです。これからも、みんながかかわり合って日々の学習をすることができれば良いと思っています。

11月10日の山形新聞に記事が載りました。「キジクル」では、動画ニュースとして見ることができます。是非、見てください。

「餌やり、乗馬楽しい」

特別支援 学校児童 ホースセラピー体験

寒河江

寒河江市の県立播磨特別支援学校寒河江校(吉原常能校長)で学ぶ小学部児童18人が7日、併設する高松小のグラウンドで、馬とふれあう「ホースセラピー」を体験した。

開校10周年を記念して同校が企画。ホースセラピーを体験できる、うまのすけ馬とふれあう子どもたち(寒河江市・高松小グラウンド)。

秋代表らの協力を得て開催した。高松小の1、2年生と一緒に、餌やりや乗馬を楽しんだ。いずれも小学部の3年生藤原介さん(8)は「ニンジンを食べてくれてうれしかった。1年會田叶翔さん(6)は「餌やりも乗馬もどっちも楽しかった」と喜んでいました。(高野周平)

「キジクル」に
A1編集動画